第５学年　国語科学習指導案

平成３０年１１月２０日(火)５限

授業者　教諭　白井　裕貴

**１　単元名　説明の工夫のしかたを見つけ、話し合おう**

　　　　　　「天気を予想する」

**２　単元と児童**

**(１)　単元全体の指導目標**

筆者が伝えたいこと、論の進め方、図表などの活用について考えをまとめて発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

**(２)　児童の実態(男子１７名、女子７名、計２４名)**

　　　　児童は、１学期の説明文教材「見立てる」「生き物は円柱形」の学習で「初め」「中」「終わり」の文章構造について学習している。その中で、「初め」と「終わり」に筆者の考えが書いてあり、「中」でその根拠を示すことで筆者の考えを伝わりやすいようにしているという筆者の説明の仕方の工夫について学習した。同時に要旨をまとめるといった説明文の大切なポイントを読み取る活動も行った。

「初め」「中」「終わり」の文章構造は低・中学年から学習しているため児童は、説明文＝「初め」「中」「終わり」と思っている。しかし、本単元の教材文「天気を予想する」は全体を覆う一つの大きな問いは存在せず、一つの問いに対する答えの中から新たな問いが生まれるという関連性をもって、問いと答えが三回繰り返される構成となっている。筆者の考えは最後の段落に書いてあり、これまでの説明文とは違った文章構造となっている。この教材文の筆者の工夫や説明のしかたのよさを児童が実感できるように単元を進めていきたい。

**(３)　単元構成**

　　　　本単元では、「天気を予想する」に書かれた筆者の考えについて自分なりの意見や考えをもたせることを大事にしながら、文章の構成、図表やグラフ、写真の効果的な用い方、数値を挙げての説明など説明のしかたについても読み取らせていきたい。そのために、１次では筆者の主張を明確にして、どうしてそのような主張になっているのか根拠となる文、言葉を探す活動を行う。説明のしかたのよさに目を向けさせながら、３つの問いと答えがつながっていくこの教材文の筆者の説明の仕方の工夫を感じ取らせていく。問いと答えが連続する文章構造や図や写真を効果的に用いた説明の仕方など「天気を予想する」の教材文のよさや工夫を話し合い、伝え合いを通して実感できるようにする。また、この単元で学習する筆者の説明のしかたの特徴を活かして、次の単元「グラフや表を用いて書こう」につなげていきたい。

**３　単元の指導計画(全６時間)**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 次 | 時 | 主な学習内容 |
| 第１次 | １ | ・教材文を読み、感想を書く。・単元の学習の見通しをもつ。 |
| ２(本時) | ・筆者の主張の理由を探し、三つの「問い」と「答え」のつながりを捉える。・筆者の説明の仕方の工夫と文章構造を考える。 |
| ３ | ・三つの内容を簡単な言葉でまとめていく。 |
| 第２次 | ４ | ・筆者が、表・写真・図・グラフを用いて説明した意図やその効果について考える。 |
| ５ | ・筆者の考えとその根拠となる事実を捉え、数値を用いて説明する効果を考える。 |
| ６ | ・筆者の説明のしかたの工夫についてまとめる。 |

**４　本時**

**(１)　ねらい**

　「天気を予想する」の筆者の主張の根拠となる文や言葉を探す活動を通して、三つの「問い」と「答え」の関連に着目し、文章の構成と筆者の説明のしかたの工夫を読み取ることができる。

**(２)　構想**

**①　学習課題設定のための仕掛け：選択する**

　　　　本時は「筆者は天気を予想することができると考えている、できないと考えている」といった二者択一の課題にする。二者択一にすることで児童は自分の考えをもちやすい。この教材文で筆者の主張は「天気予報の精度は向上している。しかし、天気の変化を予想し次の行動を判断するのはそれぞれの場所にいる一人一人であり、実際に自分で空を見たり、風を感じたりすることを大切にしてほしい」というどちらともとれないような表現でしめくくっている。また、本文の中でどちらの内容にも触れて説明している。この書きぶりから児童の中には考えのずれが生まれると考える。文のどこからそう思ったのかを問うことで児童から「○○の段落に書いてある」「○○と書いてある」と本文の記述を根拠に理由を述べていく。それぞれの根拠をはっきりさせていくことでこの文章が「問い」と「答え」が連続して書かれていることを確認して、筆者の説明の仕方のよさをとらえさせていきたい。

**②　学び合いのコーディネート：考えのヒントや、考えの深まりを共有させるために**

・はじめの課題の「天気を予想できるかどうか」で児童に十分に考えを深めさせていくためにグループでの活動を取り入れる。ホワイトボードを用いながら、予想できる根拠と予想できない根拠を議論し、書いていく中で筆者の主張をつかませていく。

・「天気を予想する」の教材文の大きな特徴が「問い」「答え」が三つ連続していることである。この文章構造を児童にとらえさせたい。１段落目の「問い」２・３段落目の「答え」をはじめに児童に知らせることで残り２つの「問い」「答え」が連続していることを気付かせていく。

**③　教材・教具の準備**

記述の内容に着目して読むことができるように、教科書本文を載せたワークシートを準備する。目移りしないように教材文の特徴である図や写真、グラフなどは載せずに記述に着目できるようにする。授業を進めていく中で線を引いたり、書き込んだりしていく。本時では、問い→赤、答え→青といったように視覚的に分かりやすくなるように線を引かせる。